

## 1 はじめに

4月に田中颯君、古家美昭君、栩野祐一君が入局してくれた。7月に海南医療センターから小畑裕史君が当科へ復帰し、大岩健洋君が海南医療センターへ出向した。10月に大阪大学免疫学フロンティア木下研に国内留学していた村田祥吾助教が当科へ戻り、10月末に細井裕樹助教がシンガポール国立大学大里研に留学した。田村志宣准教授は臨床・研究・教育に持ち前のバイタリティーを発揮して後輩を牽引している。西川彰則助教は病棟長として網渡りの病床管理をしながら院内電子カルテの改善に尽力している。蒸野寿紀助教は「働き方改革」をモットーに病棟・外来の運営に努力してスタッフの勤務環境を改善している。山下友佑君は種々の実験手法を身につけている。堀善和君と弘井孝幸君は病棟診療の中心として縦横無尽の活躍である。

平成29年1月から準無菌病棟改修が行われ5月に終わった。無菌ベッドがなくなって患者さんと医療者にとって過しやすい環境になった。11東病棟に病床を与えて頂き、血液内科病床数は31床になった。人口の高齢化や治療法の発展によって、入院が必要な造血器疾患患者さんは今後も増加する。私たちの一番のミッションは「診療」であり、安全で十分な医療を患者さんに提供していきたい。

多忙で多彩な臨床現場にこそ研究のシーズが隠されていると思う。本年度は同種移植後後期に発生する腹水症に肝線維化がかかわっていることを報告できた。実地臨床の改善には新しい視点が必要である。若手には本学の基礎医学教室や国内外の研究室を経験して、当教室に新しい潮流を作ってもらいたい。

学部学生には新患予診を取ってもらっているが、本年度は実質的なポリクリ実習時間が減り学生の臨床体験が少なくなってしまった。来年度は改善の見込みである。本年度の初期研修ローターは生地この実、田畑翔太朗、濱裕也、澗上淳也、石山雄大、安村香瑠、吉田菊晃、池田奈津子、井中将吾、篠崎宏光、松山依子、高倉敏彰、岩橋優美、竹内崇、渡邊有史、小浴秀樹、田中将規、高瀬衣里、森野由佳梨、上野山郁人、日野篤信、伊藤恭平、赤木佑衣奈の皆さんである。疾患や手技ばかりでなく患者さんの背景や他スタッフとの連携も学んでほしい。今年度も近畿血液地方会で春谷勇平君と小浴秀樹君が優秀演題賞を受賞した。蒸野寿紀助教と西川彰則助教が博士号を取得し、栗山幸大君は学位取得まであと一步である。

教授職を拝命して3年半が経過した。新聞のスポーツ欄に「監督が代わってチームがよくなった（悪くなった）」という記事を読むと今でもドキッとする。昇任時の初心を忘れず、臨床を第一にして研究と教育につなげていきたい。

最後になりましたが、多忙にもかかわらず患者さんに温かい看護を提供している木村和美師長・片山理恵師長をはじめとした5西病棟・11東病棟・血液内科外来のスタッフに感謝申し上げます。松浪美佐子主任をはじめ輸血部の皆さん、薬剤部の喜多えり奈先生、有難うございます。医局の花井宏実さん・矢田尚子さん、いつもご苦労様です。

平成30年3月吉日

園木孝志



## 2 教室現況

### (1) 教室員

医局	教授	園木 孝志	
	准教授	田村 志宣	
	助教	西川 彰則	
	助教	細井 裕樹	(2017. 10 月～ 海外留学中)
	助教	蒸野 寿紀	
	助教	村田 祥吾	
	学内助教	小畑 裕史	
	学内助教	山下 友佑	(大学院生)
	学内助教	弘井 孝幸	
	学内助教	堀 善和	
	学内助教	田中 颯	
	学内助教	古家 美昭	
	非常勤講師	花岡 伸佳	
	非常勤医師	綿貫 樹里	
	事業担当補助員	花井 宏実	
	秘書	矢田 尚子	
輸血部	主任	松浪 美佐子	
	主査	堀端 容子	
	主査	中島 志保	
	副主査	富坂 竜矢	
	医療技師	井本 翔平	
	移植コーディネーター	上田 かやこ	

研修医	生地 この実	(2017. 4 月～ 6 月)
	田畑 翔太朗	(2017. 4 月～ 6 月)
	濱 裕也	(2017. 4 月～ 6 月)
	淵上 淳也	(2017. 4 月～ 6 月)
	小浴 秀樹	(2017. 6 月～ 7 月)
	石山 雄大	(2017. 7 月～ 8 月)
	安村 香瑠	(2017. 7 月～ 8 月)
	吉田 菊晃	(2017. 7 月～ 8 月)
	田中 将規	(2017. 8 月)
	井中 将吾	(2017. 9 月～10 月)
	篠崎 宏光	(2017. 9 月～10 月)

池田 奈津子	(2017. 9月～11月)
松山 依子	(2017. 9月～11月)
高瀬 衣里	(2017. 11月～12月)
高倉 敏彰	(2017. 11月～12月)
森野 由佳梨	(2017. 12月)
岩橋 優美	(2018. 1月～ 2月)
上野山 郁人	(2018. 1月)
日野 篤信	(2018. 1月)
伊藤 恭平	(2018. 2月)
竹内 崇	(2018. 2月～ 3月)
渡邊 有史	(2018. 2月～ 3月)
赤木 佑衣奈	(2018. 3月)

## (2) 人事異動

### 採用

学内助教	田中 颯	(2017. 4月 1日～)
学内助教	古家 美昭	(2017. 4月 1日～)
学内助教	小畑 裕史	(2017. 7月 1日～)

### 退職

学内助教	大岩 健洋	(～2017. 6月 30日)
学内助教	堀 善和	(～2018. 3月 31日)
学内助教	古家 美昭	(～2018. 3月 31日)

### 転出

医療技師	井本 翔平	(～2017. 3月 31日)
------	-------	-----------------

## (2)役割・責任体制

2017.10月～

1. 医局長: 田村 (副医局長: 西川)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務(医局内人事、バイト、慶弔、医局費、医局図書)</li> <li>・秘書支援(採用と更新と検診、薬説明会、年報、ホームページ、研究費申請)</li> <li>・研究会(主宰の講演会、学会)</li> <li>・行事(入局案内、歓送迎会、花見、暑気払、忘年会、医局旅行)</li> <li>・会議の主導(医局会議、予算会議)</li> <li>・救急・集中治療連絡委員</li> <li>・感染予防対策委員</li> </ul>
2. 研究主任: 田村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室運営(機器や試薬管理など基盤整備と配分、安全指導など)</li> <li>・研究打ち合わせ、学会予行、研究費やIRB申請の支援</li> <li>・試薬管理責任者</li> </ul>
3. 病棟医長: 西川 (副病棟医長: 田村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床運営(入・退院、主治医指名、他科交渉)</li> <li>・管理(回診、学生実習、当直医・日誌、レセプト、臨床試験、剖検)</li> <li>・検討会(死因検討会)</li> <li>・リスクマネージャー</li> <li>・危機管理(医療ミス、事件、感染対策、緊急連絡、災害訓練、投書対応)</li> <li>・保険請求担当(DPC, 入院)</li> <li>・保険請求担当者会議</li> </ul>
4. 外来医長: 蒸野 (副外来医長: 村田)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療担当医表、レセプト、外来診療用コンピューターの管理</li> <li>・外来の危機管理(苦情、事故、外来診療相談など)</li> <li>・保険請求担当(DPC, 外来)</li> </ul>
5. 副外来医長: 村田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパス運営委員会</li> </ul>
6. 教育主任: 園木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、試験の管理、学生オーガナイザー(4年生)、卒業試験(6年生)、依頼問題作成</li> <li>・病棟実習(必修や選択実習、症例選択)の支援(病棟医長と協力)</li> <li>・臨床実習ディレクター</li> </ul>
7. その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒後臨床研修センター長(平成28年4月～)</li> <li>・生涯研修センター長(平成28年4月～)</li> <li>・更正医療担当</li> <li>・研究活動活性化委員会</li> <li>・腫瘍センター放射線治療委員会(経理課)</li> <li>・卒後研修委員</li> <li>・リハビリテーション部運営委員会(リハビリテーション部)</li> <li>・原爆被爆健康管理手当等認定医</li> <li>・身体障害者福祉専門分科会審査部会委員</li> <li>・和歌山県エイズ対策推進協議会委員</li> <li>・和歌山県立医科大学遺伝子組換え実験安全委員会委員</li> </ul> <p><b>病院委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経理課 (科長会、腫瘍センター運営、腫瘍センター放射線治療、病院機能評価認定更新対策、中央手術部運営)</li> <li>医事課 (エイズ診療対策、脳死臓器移植対策、放射線安全)</li> <li>医療安全推進部(医療安全推進、事故調査)</li> <li>感染制御部(感染予防対策、感染予防運営)</li> <li>薬剤部 (薬事、薬剤部運営)</li> <li>輸血部 (輸血療法)</li> <li>リハビリテーション部(リハビリテーション部運営)</li> <li>卒後臨床研修センター(卒後臨床研修管理)</li> </ul> <p><b>医学部委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子解析研究に関する倫理審査</li> <li>職業倫理</li> <li>地域医療支援</li> </ul>
1) 園木	
2) 田村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副科長</li> <li>・栄養管理委員</li> <li>・がん化学療法プロトコール委員</li> <li>・経理課 (腫瘍センター化学療法)</li> <li>・薬剤部 (レジメン審査)</li> <li>・移植調整医師</li> </ul>
3) 西川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテプロジェクトメンバー</li> <li>・がん診療拠点病院(相談支援センター業務)担当医</li> <li>・医療情報部次長</li> <li>・和歌山県骨髄移植対策協議会委員</li> <li>・移植調整医師・委嘱連絡医師</li> <li>・和歌山県献血推進協議会</li> <li>・中央手術部運営委員会(代理)</li> </ul> <p><b>病院委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸血部 (輸血療法)</li> <li>経理課 (医療情報部運営)</li> </ul>
4) 村田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経理課 (クリティカルパス運営)2017.12月～</li> <li>・経理課 (腫瘍センター化学療法(副))</li> <li>・薬剤部 (レジメン審査(副))</li> <li>・移植調整医師</li> </ul>
5) 蒸野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーダーリングシステム入力責任者(主)</li> <li>・予約メンテナンス管理責任者(主)</li> <li>・各科代表者薬事委員</li> <li>・人権同和研修委員</li> <li>・職場研修委員</li> <li>・移植調整医師</li> <li>・イメージカンファレンス</li> <li>・抄読会</li> <li>・症例検討会(CCポイントコメント)</li> </ul>

### 3 スケジュール表

- (1) 医学部生の病棟臨床実習
- (2) 血液内科診療の医師勤務表
- (3) 5階西病棟の当直医表 (3月)
  - (1) - (3) は次ページに収録。

#### (4) 医局行事

##### 1) 週刊

- 月曜日 医局会 (入・退院、連絡事項)、チャートカンファレンス
- 火曜日 回診 (5階西病棟)、
- 水曜日 研究打合せ、学会予行、症例検討会、死因検討会、
- 木曜日 早朝カンファレンス (MGH, CC)、イメージカンファレンス
- 金曜日 HIV カンファレンス (外来)

##### 2) 月刊

- リサーチカンファレンス
- 抄読会
- 移植カンファレンス
- 診療会議 (死因、感染、危機管理、病床運営、投書・広報)

##### 3) 年間

- 歓迎会 (4月)、納涼会 (8月)、科研費申請 (9月)
- 忘年会 (12月)、年報作成 (3月)、人事 (随時)

# 臨床実習

平成 29 年 4 月～

## 血液内科

集合場所：研究棟 10 階 血液内科医局（内線 5453）

総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の秘書机に一部提出すること。  
 （訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）

☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆

日付	8	9	10:30	12:30	13	14	15	16	17～
/		第1週目 実習の 楽しみ方 (園木教授)	症例学習				第1週目 (他科)		第2週目 17:00- 19:30 チャート カンファレンス
(/)		第2週目 (他科)					第2週目 ※症例学習		5 西 CR
月		第1週目 入院患者廻診 (園木教授)	第1週目 外来 (園木教授)	12:30- 薬第 の1 説明 会			第1週目 (他科)		
(/)		第2週目 (他科)		医局	症例学習	第2週目 14:00-15:00 造血幹細胞移植 (村田助教) 5 西 CR		※症例学習	
火		第1週目 症例学習					第1週目 (他科)		
(/)		第2週目 (他科)				第2週目 14:00-15:00 輸血部実習 (松浪主任)		※症例学習	
水		第1週目 外来・内科診察 (園木教授)					第1週目 (他科)		
(/)	第2週目 8:00- 8:30 カンファレンス (CC/ MGH)	第2週目 (他科)			症例学習	第2週目 14:00-15:00 血球形態を学ぶ (西川助教) 5 西 CR		第2週目 16:00- HIV 感染症を把える (園木教授) 5 西 CR	
木		第1週目 症例学習					第1週目 (他科)		
(/)		第2週目 (他科)				第2週目 ※症例学習		第2週目 16:00- レポート発表会/レポート提出(園 木教授)5 西 CR ※レポートは2部、スライド資 料は全員分と教官用を準備	
金		第1週目 症例学習					第1週目 (他科)		
(/)		第2週目 (他科)					第2週目 ※症例学習		

※随時、疾患について討論を行う(園木)

教官から指摘を受けた個  
所を訂正し、必ず本日で  
提出すること(代表者  
1名が取りまとめ提出)

## (2) 血液内科診療の医師勤務表

	月	火	水	木	金
外来診察1	田村	園木	田村	園木	園木
診察2	村田	西川	蒸野	村田	西川
診察3					小畑
予診室 処置係	西川(新患) 田中	蒸野(新患) 古家	村田(新患) 田中	蒸野(新患) 田中	田村(新患) 古家
他病棟当日診察依頼	古家(堀)	田中(弘井)	弘井(小畑)	堀(田中)	小畑(古家)
予約外当日外来新患 フォローアップ外来	西川	蒸野	村田	蒸野	田村
医局行事	医局会 (15:00~15:30) (入・退院, 連絡等)	病棟回診 (8:30~10:00)	研究打合わせ	MGH(学生実習2週目) (8:00~8:30)	移植カンファレンス (17:00~)毎月月末
	チャート カンファレンス (17:00~19:00)	薬の説明会 (2回/月12:30~)		イメージカンファレンス (第1・3週)	リサーチカンファレンス (第2)17:00~
				症例検討会(研修医のい る月第1・3週)	

## (3) 5階西病棟の当直医表

平成30年3月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				3月1日 田中	3月2日 月山(田村)	3月2日 村田
3月4日 西川	3月5日 古家	3月6日 堀	3月7日 田村	3月8日 山下	3月9日 堀	3月10日 田中
3月11日 山下	3月12日 弘井	3月13日 古家	3月14日 蒸野	3月15日 弘井	3月16日 田中	3月17日 堀
3月18日 小畑	3月19日 弘井	3月20日 堀	3月21日 蒸野	3月22日 西川	3月23日 小畑	3月24日 古家
3月25日 田村	3月26日 村田	3月27日 山下	3月28日 田中	3月29日 古家	3月30日 小畑	3月31日 弘井



## 4 主な活動内容

### (1) 学会および研究会

#### 1) 全国学会

園木孝志：「Development of double hit lymphoma from a view of chromosome breakpoints」第57回日本リンパ網内系学会総会 2017.6.30 東京

細井裕樹、栗山幸大、綿貫樹里、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、蒸野寿紀、村田祥吾、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「8q24 転座を有するリンパ腫細胞株における PVT1 内 miRNA 発現検討」、第57回日本リンパ網内系学会総会 2017.6.30 東京

村田祥吾、村上良子、大里真紀子、植田康敬、西村純一、井上徳光、川本未知、幸原伸夫、木下タロウ：「PIGT-PNH 患者における自己炎症メカニズムの解明 その1 患者検体からの検討」、第54回日本補体学会学術集会、2017.9.1-2 福島

大里真紀子、村上良子、村田祥吾、植田康敬、西村純一、金倉譲、木下タロウ：「PIGT-PNH 患者における自己炎症メカニズムの解明 その2 ヒト単球細胞株での解析」、第54回日本補体学会学術集会、2017.9.1-2 福島

花岡伸佳：「寒冷凝集素症の病態とマネジメント」、第24回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム、2018.10.13 大分

Yusuke Yamashita, Shinobu Tamura, Yoshifumi Iwahashi, Masakazu Fujimoto, Akinori Nishikawa, Nobuo Kanazawa, Koichi Ohshima, Ken-Ichi Imadome, Takashi Sonoki : Fulminant development of aggressive NK-cell leukemia after allo-HSCT in a patient with EBV-HLH 第79回日本血液学会学術集会 2017.10.20-22 東京

河本啓介、三好寛明、香西康司、加藤光次、宮原正晴、湯尻俊昭、大石直輝、崔日承、藤巻克通、牟田毅、久米正晃、盛口清香、田村志宣、加藤丈晴、田川博之、牧山純也、蟹澤祐司、佐々木裕哉、栗田大輔、山田恭平、曾根博仁、瀧澤淳、瀬戸加大、木村宏、大島孝一：「成人発症の慢性活動性 EB ウイルス感染症(CAEBV)の臨床病理学的検討」第79回日本血液学会学術集会 2017.10.20-22 東京

栗山幸大、細井裕樹、田村志宣、弘井孝幸、堀善和、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、蒸野寿紀、村田祥吾、西川彰則、園木孝志：「減量 R-THP-COP 療法は臓器障害がない状態良好な高齢者 DLBCL 症例に有用である」第79回日本血液学会学術集会 2017.10.20-22 東京

細井裕樹、栗山幸大、村田祥吾、蒸野寿紀、弘井孝幸、堀善和、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、西川彰則、畑中一生、花岡伸佳、田村志宣、園木孝志：「ヒアルロン酸は移植後後期難治性腹水症のバイオマーカーである」第79回日本血液学会学術集会 2017.10.20-22 東京

西川彰則、入江真行：「結果確認漏れ防止アラート機能導入の試み」第18回本医療情報学会学術大会 2017.11.22 大阪

田村志宣、小畑裕史、山下友佑、蒸野寿紀、細井裕樹、村田祥吾、西川彰則、吉浦孝一郎、今井耕輔、森尾友宏、園木孝志：Successful cord blood transplantation in a patient with adult-onset common variable immunodeficiency, 第1回日本免疫不全自己炎症学会総会学術集会 2018.1.20 東京

蒸野寿紀、田村志宣、山下友佑、三嶋博之、南弘一、月野隆一、今井耕輔、鈴木啓之、森尾友宏、吉浦孝一郎、園木孝志第：「Evans 症候群および低ガンマグロブリン血症を発症した歌舞伎症候群の一例」1回日本免疫不全自己炎症学会総会学術集会 2018.1.20 東京

弘井孝幸、蒸野寿紀、田中 颯、山下友佑、栗山幸大、村田祥吾、古家美昭、堀 善和、大岩健洋、小畑裕史、細井裕樹、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「治療抵抗性急性骨髄単球性白血病に対する臍帯血移植後に難治性腹水症を発症した一例」、第 40 回日本造血細胞移植学会総会 2018. 2. 1-3 札幌

## 2) 地方学会

春谷勇平、田村志宣、小畑裕史、弘井孝幸、大岩健洋、山下友佑、蒸野寿紀、細井裕樹、西川彰則、園木孝志、「成人発症した分類不能型免疫不全症に対し臍帯血移植を施行した一例」、第 107 回近畿血液学地方会 2017. 6. 17 京都

堀 善和、蒸野寿紀、弘井孝幸、大岩健洋、山下友佑、細井裕樹、西川彰則、田村志宣、園木孝志、龍田浩一、美馬 亨：「自施設で ADAMTS13 活性を測定し早期診断・治療介入ができた血栓性血小板減少性紫斑病の一例」、第 85 回和歌山医学会総会、2017. 7. 23 和歌山

堀 善和、蒸野寿紀、田中 颯、弘井孝幸、大岩健洋、小畑裕史、山下佑友、細井裕樹、中島志保、堀端容子、松浪美佐子、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「当科におけるプレリキサホルを用いた自家末梢血幹細胞採取について」、第 61 回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会、2017. 11. 11 京都

弘井孝幸、蒸野寿紀、田中颯、古家美昭、堀善和、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、栗山幸大、細井裕樹、村田祥吾、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「治療抵抗性急性骨髄単球性白血病に対する臍帯血移植後長期寛解中に移植後後期腹水症を発症した一例」、第 61 回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会、2017. 11. 11 京都

小浴秀樹、田村志宣、田中 颯、弘井孝幸、堀 善和、山下友佑、小畑裕史、蒸野寿紀、細井裕樹、西川彰則、園木孝志：「Neurofibromatosis type 1 に続発したリンパ形質細胞性リンパ腫 IgA 型の若年例」、第 108 回近畿血液学地方会、2017. 11. 18 大阪

田中将規、田村志宣、小浴秀樹、小畑裕史、山下友佑、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、園木孝志：「治療開始後早期に中枢神経浸潤をきたした ALK 陰性未分化大細胞リンパ腫・白血化の一例」第 218 回日本内科学会近畿地方会 2017.12.2 神戸市

## 3) 国際学会または国際シンポジウム

Makiko Osato, MS, Yoshiko Murakami, MD, PhD, Shogo Murata, MD, PhD, Jun-Ichi Nishimura, MD, PhD, Yasutaka Ueda, MD, PhD, Taroh Kinoshita, PhD and Yuzuru Kanakura, MD, PhD : Elucidation of Autoinflammatory Mechanism in Pigt-PNH  
ASH 59th Annual Meeting and Exposition (December 9-12, 2017) Atlanta

Takayuki Hiroi, Toshiki Mushino, Ken Tanaka, Yoshiaki Furuya, Yoshikazu Hori, Takehiro Oiwa, Hiroshi Kobata, Yusuke Yamashita, Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Akinori Nishikawa, Shinobu Tamura, Suguru Takeuchi, Masaharu Nohgawa, Taro Yamashita, Yukio Ando, Hiroyuki Hata, Takashi Sonoki : "AL amyloidosis diagnosed using anti-IGLL5 antibody: a case report", The XVIth International Symposium on Amyloidosis 2018. 3. 26-29 Kumamoto

## 4) その他（研究会等）

西川彰則：「搔痒感を伴う紅斑を合併した真性多血症の一例」、第 2 回和歌山 MPN セミナー、和歌山県 JA ビル 2017. 6. 9 和歌山

田村志宣：「臨床検査技師と薬剤師が知っておきたい血液疾患における検査値、薬物治療について」、和歌山県病院薬剤師会研修会、和歌山県 JA ビル、2017. 6. 24

細井裕樹：「同種造血幹細胞移植後後期に発生する難治性腹水症」、和歌山血液学セミナー、2017. 7. 21 和歌山

西川彰則：「TKI 治療実際と課題」、アイクルシグ錠発売記念講演会 in 和歌山、2017. 7. 28

弘井孝幸:「ART開始直後にB型肝炎症状が増悪したHIV感染症例」、第10回近畿HIV FRONTIER研究会、2017.7.29  
大阪

西川彰則:「当施設におけるカイプロリスの使用経験」カイプロリスKd療法追加記念講演会 in 和歌山、2017.9.1

田村志宣:「DNA二本鎖切断修復因子に着目した骨髄異形成症候群の病態解明への取り組み」、第7回紀州血液塾、2017.10.27

西川彰則:「無床診療所での輸血療法の実際」、平成29年度兵庫県輸血医療従事者研修会、神戸市 2017.11.5

西川彰則:「骨髄腫ってどんな病気?」、日本骨髄腫患者の会、和歌山YMCAホール 2017.11.11

西川彰則:「骨髄腫の治療」、日本骨髄腫患者の会、和歌山YMCAホール 2017.11.11

村田祥吾、小池有美:「骨髄腫の合併症の治療」、日本骨髄腫患者の会、和歌山YMCAホール 2017.11.11

田村志宣:「骨髄腫の治療 すぐそこ」、日本骨髄腫患者の会、和歌山YMCAホール 2017.11.11

蒸野寿紀:「エクリズマブを投与したC5遺伝子変異陽性PNH」、第1回和歌山PNHセミナー 2017.11.17

蒸野寿紀:「再生不良性貧血に対しエルトロンボパグを投与した一例」、Novartis Hematology Forum In Wakayama、和歌山県JAビル2階和ホールC、2017.12.15 和歌山

西川彰則:「がん見落とし事例」、第45回和歌山悪性腫瘍研究会、和歌山県立医科大学 2017.12.16

西川彰則:「重度肝障害のある骨髄腫症例」、Myeloma Conference 和歌山マリーナシティホテル 2017.12.21

西川彰則:「治療経過中にスティーブンス・ジョンソン症候群を認めた症例」、Myeloma Conference 和歌山マリーナシティホテル 2017.12.21

西川彰則:「移植非適応者のマネジメント」、Multiple Myeloma Academy in WAKAYAMA、ホテルアバローム 紀の国 2018.1.26

西川彰則:「在宅輸血の安全管理」、平成29年度第2回兵庫輸血ミーティング、神戸市民中央病院 2018.1.27

田村志宣:「骨髄不全症の臨床と病態 ～実臨床を踏まえて～」、和歌山医大大学院講義、和歌山医大臨床講堂、2018.2.9

園木孝志:「高齢者における血液疾患診療」、和歌山県内科医会学術講演会、橋本商工会館 2018.2.10

## (2) 学術論文

### 1) 和文原著

春谷勇平、田村志宣、小畑裕史、大岩健洋、山下友佑、蒸野寿紀、細井裕樹、村田祥吾、西川彰則、今井耕輔、森尾友宏、園木孝志:「臍帯血移植が奏効した成人型分類不能型免疫不全症」臨床血液 59; 293-299, 2018

小山明日美、塩谷千恵子、栗原稔男、蒸野寿紀、岡本幸春、玉置達紀、尾崎敬、大島孝一、田村志宣:「原因不明の貧血として10年間経過観察したのち診断し得た脾臓辺縁帯リンパ腫」臨床血液 58; 9-14, 2017

蒸野寿紀、堀善和、瀧上淳也、弘井孝幸、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、細井裕樹、村田祥吾、井本翔平、富坂竜矢、中島志保、堀端容子、松浪美佐子、西川彰則、田村志宣、園木孝志:「血小板輸血によるアナフィラキシーショック回避に洗浄血小板が有用であった同種移植例」日本輸血細胞治療学会誌、2018、in press

## 2) 英文原著

Fukuda Y, Higuchi Y, Shinozaki K, Tanigawa Y, Abe T, Hanaoka N, Matsubayashi N, Yamaguchi T, Kosho T, and Nakamichi K: Mobile Cecum in a Young Women with Ehlers-Danlos syndrome hypermobility type : A Case Report and Review of the Literature. *Intern Med.* 56:2791-6,2017

Kobayashi T, Nannya Y, Ichikawa M, Oritani K, Kanakura Y, Tomita A, Kiyoi H, Kobune M, Kato J, Kawabata H, Sindo M, Torimoto Y, Yonemura Y, Hanaoka N, Nakakuma H, Hasegawa D, Manabe A, Fujishima N, Fujii N, Tanimoto M, Morita Y, Matsuda A, Fujieda A, Katayama N, Ohashi H, Nagai H, Terada Y, Hino M, Sato K, Obara N, Chiba S, Usuki K, Ohta M, Imataki O, Uemura M, Takaku T, Komatsu N, Kitanaka A, Shimoda K, Watanabe K, Tohyama K, Takaori-Kondo A, Harigae H, Arai S, Miyazaki Y, Ozawa K, Kurokawa M; for National Research Group on Idiopathic Bone Marrow Failure Syndromes: A nationwide survey of hypoplastic myelodysplastic syndrome (a multicenter retrospective study) *American journal of hematology* 92:1324-32,2017

Tamura S, Koyama A, Shiotani C, Sonoki T. LIG4 syndrome associated with hypocellular myeloid dysplasia. *Inter Med* 2018 [Epub ahead of print].

Kuriyama K, Enomoto Y, Suzuki R, Watanuki J, Hosoi H, Yamashita Y, Murata S, Mushino T, Tamura S, Hanaoka N, Dyer M, Siebert R, Kiyonari H, Nakakuma H, Kitamura T, Sonoki T. Enforced expression of MIR142, a target of chromosome translocation in human B-cell tumors, results in B-cell depletion. *Int J Hematol* 2017 [Epub ahead of print].

Slack J, Albert MH, Balashov D, Belohradsky BH, Bertaina A, Bleesing J, Booth C, Buechner J, Buckley RH, Ouachée-Charadin M, Deripapa E, Drabko K, Eapen M, Feuchtinger T, Finocchi A, Gaspar HB, Ghosh S, Gillio A, Gonzalez-Granado LI, Grunebaum E, Gungör T, Heilmann C, Helminen M, Higuchi K, Imai K, Kalwak K, Kanazawa N, Karasu G, Kucuk ZY, Laberko A, Lange A, Mahlaoui N, Meisel R, Moshous D, Muramatsu H, Parikh S, Pasic S, Schmid I, Schuetz C, Schulz A, Schultz KR, Shaw PJ, Slatter MA, Sykora KW, Tamura S, Taskinen M, Wawer A, Wolska-Kus Nierz B, Cowan MJ, Fischer A, Gennery AR; Inborn Errors Working Party of the European Society for Blood and Marrow Transplantation and the European Society for Immunodeficiencies; Stem Cell Transplant for Immunodeficiencies in Europe (SCETIDE); Center for International Blood and Marrow Transplant Research; Primary Immunodeficiency Treatment Consortium. Outcome of hematopoietic cell transplantation for DNA double-strand break repair disorders. *J Allergy Clin Immunol* 2017 [Epub ahead of print].

Tamura S, Koyama A, Yamashita Y, Shiotani C, Nakamoto H, Nakamoto C, Suzuki M, Nakano Y, Imaoka K, Sonoki T, Fujimoto T. Capnocytophaga canimorsus sepsis in a methotrexate-treated patient with rheumatoid arthritis. *IDCases* 2017;10:18-21.

Kawamoto K, Miyoshi H, Yanagida E, Yoshida N, Kiyasu J, Kozai Y, Morikita T, Kato T, Suzushima H, Tamura S, Muta T, Kato K, Eto T, Seki R, Nagafuji K, Sone H, Takizawa J, Seto M, Ohshima K. Comparison of clinicopathological characteristics between T-cell prolymphocytic leukemia and peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified. *Eur J Hematol* 2017;98:459-466.

Yamashita Y, Tamura S, Oiwa T, Kobata H, Kuriyama K, Mushino T, Murata S, Hosoi H, Nishikawa A, Hanaoka N, Sonoki T. Successful Intrathecal Chemotherapy Combined with Radiotherapy Followed by Pomalidomide and Low-Dose Dexamethasone Maintenance Therapy for a Primary Plasma Cell Leukemia Patient. *Hematol Rep* 2017;9:6986.

Hosoi H, Imadome KI, Tamura S, Kuriyama K, Murata S, Yamashita Y, Mushino T, Oiwa T, Kobata H, Nishikawa A, Nakakuma H, Hanaoka N, Isobe Y, Ohshima K, Sonoki T. An Epstein-Barr virus susceptible immature T-cell line, WILL4, established from a patient with T-lymphoblastic lymphoma bearing CD21 and a clonal EBV genome. *Leuk Res* 2017;55:1-5.

Hiroki Hosoi, Toshiki Mushino, Akinori Nishikawa, Shogo Murata, Kodai Kuriyama, Yusuke Yamashita, Hiroshi Kobata, Takehiro Oiwa, Nobuyoshi Hanaoka, Shinobu Tamura, Takashi Sonoki: Marked Elevation of Serum Hyaluronic Acid in Patients Exhibiting Late-Phase Ascites after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Acta Haematologica* 2018;139:81-83

Goto T, Tanaka T, Sawa M, Ueda Y, Ago H, Chiba S, Kanamori H, Nishikawa A, Nougawa M, Ohashi K, Okumura H, Tanimoto M, Fukuda T, Kawashima N, Kato T, Okada K, Nagafuji K, Okamoto SI, Atsuta Y, Hino M, Tanaka J, Miyamura K

Prospective observational study on the first 51 cases of peripheral blood stem cell transplantation from unrelated donors in Japan. *Int J Hematol.* 2018 Feb;107(2):211-221

Yanada M, Yano S, Kanamori H, Gotoh M, Emi N, Watakabe K, Kurokawa M, Nishikawa A, Mori T, Tomita N, Murata M, Hashimoto H, Henzan H, Kanda Y, Sawa M, Kohno A, Atsuta Y, Ichinohe T, Takami A.

Autologous hematopoietic cell transplantation for acute promyelocytic leukemia in second complete remission: outcomes before and after the introduction of arsenic trioxide. *Leuk Lymphoma.* 2017 May;58(5):1061-1067

### (3) 著書(単行本、シリーズもの含む)

### (4) その他の印刷物(研究成果報告集、学会抄録集、寄稿文など)

### (5) 受賞等

西川彰則：平成 28 年度和歌山県立医科大学医学部ベストティーチャー賞

### (6) 研究費、助成金

花岡伸佳：平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の用化研究事業（再生医療関係研究分野））（分担）、iPS 細胞を活用した血液・免疫系難病に対する革新的治療薬の開発

園木孝志：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業、HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究

田村志宣：日本血液学会平成 29 年度研究助成金（DNA 二重鎖切断修復障害モデルマウスを用いた骨髄異形成症候群の病態解明と治療法の開発）

細井裕樹：平成 29 年度和歌山県立医科大学若手研究支援助成（難治性悪性リンパ腫発症における PVT1 の役割）

### (7) 支援研究会など

**Wakayama Myeloma Forum**（セルジーン株式会社主催）：「多発性骨髄腫における抗体療法の可能性と微小残存病変検出の意義」、**高松博幸**（金沢大学 医薬保健研究域医学系 血液・呼吸器内科 助教）、アバローム紀の国、2017. 4. 21 和歌山

**Wakayama Myeloma Forum**（セルジーン株式会社主催）：「多発性骨髄腫の治療戦略」、**柴山浩彦**（大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 准教授）、アバローム紀の国、2017. 4. 21 和歌山

**第 2 回和歌山 MPN セミナー**（ノバルティスファーマ株式会社主催）：「MPN に対する JAK 阻害薬の可能性」、**松村 到**（近畿大学医学部 血液・膠原病内科 教授）、和歌山ビッグ愛、2017. 6. 9 和歌山

**第 3 回和歌山血友病研究会**（ファイザー株式会社主催）：「後天性血友病～症状・診断・治療～」、**徳川多津子**（兵庫医科大学 内科学 血液内科 助教）、JA 和歌山県ビル、2017. 7. 8 和歌山

**和歌山血液学セミナー**（協和発酵キリン株式会社）：「より良い造血幹細胞移植を目指して」、**瀬尾幸子**（国立がん研究センター 血液腫瘍科）、和歌山県立医科大学 臨床講堂Ⅱ 2017. 7. 21

**アイクルシグ錠発売記念講演会 in 和歌山**（大塚製薬株式会社主催）：「Ph+ALL CML 治療戦略 自験例を含め」、**中前博久**（大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 准教授）、ホテルグランヴィア和歌山、2017. 7. 28 和歌山

**カiproリス Kd 療法追加記念講演会 in 和歌山**（小野薬品工業株式会社主催）：「多発性骨髄腫の病態解明と治療法の進歩」、**安倍正博**（徳島大学大学院医歯薬研究部 血液・内分泌代謝内科学分野 教授）、ホテルグランヴィア和歌山、2017. 9. 1

**第5回造血幹細胞移植セミナー**（中外製薬株式会社主催）：「移植看護で知っておきたいケア」、**鶴田理恵**（大阪市立大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）、ホテルアバローム紀の国、2017.9.22

**第5回造血幹細胞移植セミナー**（中外製薬株式会社主催）：「意思決定支援におけるコミュニケーション」、**山崎仁美**（大崎市立大学医学部附属病院 がん放射線療法看護認定看護師）、ホテルアバローム紀の国、2017.9.22

**第7回紀州血液塾**（中外製薬株式会社共催）：「難治性多発性骨髄腫の治療経験」、**佐多 弘**（りんくう医療総合センター血液内科 医長）、ダイワロイネットホテル和歌山、2017.10.27

**第7回紀州血液塾**（中外製薬株式会社共催）：「骨髄異形成症候群の病態と治療」、**宮崎泰司**（長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野 教授）、ダイワロイネットホテル和歌山、2017.10.27

**血液学セミナー**：「PIGA 遺伝子異常の発見とその後の展開」、**木下タロウ**（大阪大学微生物病研究所・免疫フロンティア研究センター 藪本難病解明寄付研究部門 教授）、血液内科医局 2017.11.17

**第1回和歌山PNHセミナー**（アレクシオンファーマ主催）：「PNHにおける補体の役割とメカニズム」、**木下タロウ**（大阪大学微生物病研究所・免疫フロンティア研究センター 藪本難病解明寄付研究部門 教授）、和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター 2017.11.17

**第1回和歌山PNHセミナー**（アレクシオンファーマ主催）：「PNH診療の参照ガイド改定のポイント」、**植田康敬**（大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 特任助教）和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター 2017.11.17

**重症感染症セミナー**（大日本住友製薬株式会社主催）：「造血器腫瘍における真菌感染症」、**森本将矢**（聖路加国際病院 血液内科専攻医）、和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター 2017.11.17

**重症感染症セミナー**（大日本住友製薬株式会社主催）：「みんなで取り組む感染対策と医療安全」、**一山智**（京都大学医学部附属病院 感染制御部）、和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター 2017.11.17

**Novartis Hematology Forum In Wakayama**（ノバルティスファーマ株式会社主催）：「慢性期CMLに対する最新情報」、**柴山浩彦**（大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 准教授）和歌山県 JA ビル 2017.12.15

**Myeloma Conference**（セルジーン株式会社主催）：「多発性骨髄腫の最新治療～抗体医療で治療が変わる！～」、**田村秀人**（日本医科大学 血液内科 准教授）、和歌山マリーナシティホテル 2017.12.21

**第3回血液・腫瘍塾**（中外製薬株式会社主催）：「ITP治療 最近の話題」**野村昌作**（関西医科大学 副学長 内科学第一講座主任教授）、和歌山県立医科大学 生涯研修センター 2018.1.12

**Multiple Myeloma Academy in WAKAYAMA**（武田薬品工業株式会社主催）：「多発性骨髄腫の治療戦略～イキサゾミブの役割を踏まえて～」、**半田 寛**（群馬大学医学部附属病院 血液内科診療教授・科長）、ホテルアバローム紀の国 2018.1.26

**第16回和歌山造血細胞療法研究会**（アステラス製薬株式会社主催）：「移植を受けた子供たち～それからのこと～」、**井上雅美**（大阪母子医療センター 血液・腫瘍内科主任部長）、ホテルグランヴィア和歌山 2018.2.24

**第16回和歌山造血細胞療法研究会**（アステラス製薬株式会社主催）：「移植と妊孕性について」、**宇都宮智子**（うつのみやレディースクリニック院長）、ホテルグランヴィア和歌山 2018.2.24

**第16回和歌山造血細胞療法研究会**（アステラス製薬株式会社主催）：「皮膚変化のある造血器腫瘍患者がカバーメイクをしながら生活する中で抱く思い」、**林 美紅**（日本赤十字和歌山医療センター看護部）、ホテルグランヴィア和歌山 2018.2.24

**Multiple Myeloma Seminar** (武田薬品工業株式会社主催) : 「ニンラーロの副作用マネジメント・服薬指導に関する薬剤師の取り組み」、**石田耕太** (日本赤十字社医療センター薬剤部副部長)、和歌山県立医科大学図書館棟 研修室 2018. 3. 2

**Multiple Myeloma Seminar** (武田薬品工業株式会社主催) : 「移植適応多発性骨髄腫の治療戦略 2018」、**塚田信弘** (日本赤十字社医療センター血液内科副部長)、和歌山県立医科大学 図書館棟 研修室 2018. 3. 2

**和歌山血液疾患カンファレンス** (ヤンセンファーマ株式会社主催) : 「イムブルビカの使用経験について」、**金義浩** (NTT 西日本大阪病院 血液内科部長)、ホテルグランヴィア和歌山 2018. 3. 16

**和歌山血液疾患カンファレンス** (ヤンセンファーマ株式会社主催) : 「ダラザレックスの使用経験について」、**魚嶋伸彦** (日本赤十字社京都第二赤十字病院 血液内科部長)、ホテルグランヴィア和歌山 2018. 3. 16

**感染症セミナー** : **森本将矢** (聖路加国際病院) 和歌山県立医科大学 2018. 3. 23

## (8) 海外出張

該当なし

## 5 診療実績

(1)	入院	患者総 (のべ) 数 (一時退院後を含む)	412 名
	退院	患者総 (のべ) 数 (一時退院を含む)	426 名
(2)	外来	患者総 (のべ) 数	8548 名
		内新規患者数	230 名

入院患者疾病別分類 (入院のみ, 重複あり, 疑い症例を含む)

1)	白血病	138
	急性骨髄性 (AML)	109
	急性リンパ性 (ALL)	18
	慢性リンパ性 (CLL, SLL, PLL)	2
	慢性骨髄性白血病 (CML)	9
2)	骨髄異形成症候群 (MDS)	13
3)	リンパ性腫瘍	210
	DLBCL	102
	MCL	17
	DHL	10
	ALCL	10
	HL	12
	PTCL	12
	バーキット	8
	ATL	6
	ATLL	6
	IVL	6
	FL	5
	MALT	4
	T-LBL	3
	EATL	3
	BCL	2
	WM	1
	BALT	1
	B-CLL	1



4)	形質細胞腫瘍	
	多発性骨髄腫 (MM)	51
5)	血球減少症 (造血不全含む)	
	再生不良性貧血 (AA)	5
	発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH)	1
	汎血球減少症	2
	血小板減少症 (ITP)	9
	(TTP)	4
6)	溶血疾患	
	自己免疫性溶血性貧血 (AITL)	5
	寒冷凝集素症	1
7)	その他	
	造血幹細胞移植ドナー入院	7
	肺炎	2
	前立腺がん	1
	ランゲルハンス細胞肉腫	1
	後天性血友病	1
	原発性アミロイドーシス	1
	ATⅢ欠損症	1
	顆粒球減少症	1
	歌舞伎症候群	1
	脳出血	1
	POEMS 症候群	1
	LPD (MTX 関連)	1
(3)	造血幹細胞移植 (2017. 1~12)	
1)	自家移植	20
2)	血縁	4
3)	非血縁	14
(4)	死亡	20
(5)	剖検 (率)	4 (20%)

## 6 リーダーレポート

### 「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや」

副科長・研究主任 田村志宣

寄稿文を依頼されておりましたが、多忙のため、気がつけば、締め切りを超えていました。大変失礼しました。この寄稿文は、博多で開催される『ATL 臨床試験打ち合わせ会議』の参加の道中であるくろしお・のぞみの車内で揺られながら書いています。

和歌山医大血液内科に異動し、もうすぐ丸 2 年になります。臨床・基礎研究については、何となく地に足が着いてきた印象を受けています。私の中では、自分の思ったことが少しできた 1 年間でした。これは、血液内科医局員の支えはもちろんのこと、他の教室の先生たちの支えもあってのことだと思っております。関係した皆様への感謝の気持ちを忘れず、やりがいを感じながら、良質な医療の提供とインパクト高い成果を出すため、これからも引き続き自己研鑽していくつもりです。

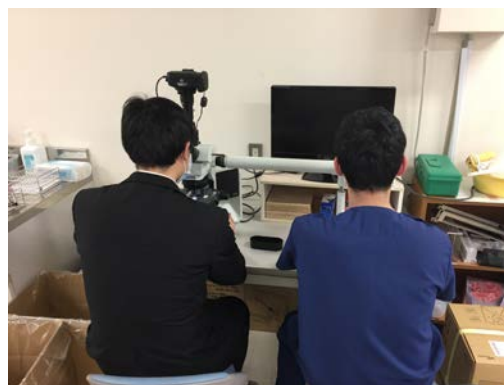
ただ、我々の取り巻く環境は、予想以上に厳しさを増しています。全ての内容について言及は致しませんが、和歌山県内の内科診療と医学教育のある種の“危うさ”を感じています。この 4 月より新内科専門医制度が開始になります。それにあたり、専攻医の研修履歴・実績をオンライン登録し、それを指導・評価する登録評価システム (J-OSLER) のサイトが開設されました。我々指導医には、ログイン照会するように内科学会より 3 月初旬にメールでの指示がありました。しかしながら、それ以上の説明はありません (あったかもしれませんが、その案内はなかったと思います)。J-OSLER の存在はもちろん知っていましたが、私自身もあまり理解できていないのが正直なところです。基幹型臨床研修病院に所属する内科系指導医が、このシステムをどのぐらい認識でき、理解できているかは不透明です。さらに、関連教育病院に所属する指導医では、尚のことでしょう。本学では、県民枠・地域枠の専攻医の多くが、大学から一定期間必ず離れます。都市部での重要な決定事項が、地方の拠点病院の指導医クラスまで行き届いていない印象を受けています。和歌山県は、特に内科系指導医の慢性的な不足が否めず、果たしてこの新制度がうまく機能するかは不安要素が大きいです。内科を志す専攻医の先生からも不安の声は聞こえてきます。そんな専攻医の不安を払拭し、和歌山県の内科診療・医学教育を底上げするためにも、新専攻医制度を充足してあげることが我々の役目だと考えております。ちなみに、JMECC (日本内科学会認定 ICLS) の本学開催のお手伝いは、その一貫です。新制度が始まる 4 月以降は、業務内容がさらに増すと予想されますが、中堅指導医として適宜対応していきたいと思っておりますので、皆様方ご協力の程宜しくお願い致します。

そんな指導医不足と言われながらも、血液内科の若い先生たちは本当に指導熱心ですし、他科のスタッフ・医学部生・初期研修医からの評価が高いです。医学部生・初期研修医の質問に対し、嫌な顔一つせず、真摯に受け答えする姿を見るたびに、理想的な環境が整いつつあると感じておりま

す。内科医療は、『伝承（伝えること）』により成り立っていくものだというのが持論です。現在の  
ような診療・教育体制が、今後も血液内科で継続できるようにしないとけません。さらには、学  
年を重ねた若い先生のモチベーションとキャリアの向上も必要となります。課題はまだ山積み  
ですが、本当にいい医局（集団）になってきたと思っています。そんなもの思いにふける中、とて  
も嬉しい出来事が3つありました。一つ目は、西川彰則先生が、本学のベストティーチング賞・臨  
床部門を受賞されたことです。臨床だけでなく、医学教育という観点からも、大学内で高い評価を  
受けていることを裏付けるものでした。二つ目は、聖路加国際病院・内科シニアレジデントである  
森本将矢先生が平成31年4月（多分、、）より当科に入局して頂けることです。関東で初期・後期  
研修医に対し内科教育を熱心にされている森本先生が、我々の仲間になって頂けることは本当に心  
強く、県内科医療の底上げにもなると信じています。三つ目は、「いかに診るか」をコンセプトに、  
内科診療に不可欠な情報をプラクティカルにまとめた総合臨床誌「**medicina**」から原稿依頼があった  
ことです。蒸野寿紀先生と共に原稿をまとめあげましたが、愛読している雑誌からお声がかかるの  
は本当に嬉しいことでした。総合診療的なマインドを和歌山医大血液内科から全国区へ少しでも発  
信できればと思い、原稿を書き上げました。

今後も、臨床研究においても、基礎研究においても、全国的な大きな流れに和歌山医大血液内科  
が取り残されないように、取り組んでいきたいと思っています。最後に僕の好きな故事成語であ  
る「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや」を紹介します。これは、「ツバメやスズメのような小さな鳥に  
は、オオトリやコウノトリのような大きな鳥の志すところは理解できない」という「史記」の記述  
です。批判的な意味で解釈する方々もいますが、要するに「少年よ、大志を抱け」と近い意味だと  
僕は思っています。我々は、今は小さな鳥の集団ですが、実は、近い未来に高所に飛び出す可能性  
を秘めた大きな鳥の集団でもあります。次に伝えるために、周りに振り回されず、アクティブに頑  
張っていきたいと思います。

というわけで、最後の最後にこの一年間で、僕の中でのベストショットを掲載します。もうすぐ  
博多駅に着きます。



## 今年度の病棟総括

病棟医長 西川 彰則

今年度もまた、リーダーレポートを書く時期になりました。昨年の今時分は、準無菌病棟工事のため、少ない病床のやりくりを強いられ病棟スタッフの皆さんには大変頑張ってもらいました。そのかいもあり、今年度4月末に無事に新・準無菌室オープンすることができました。近隣の施設には、紹介の制限をかけてしまったせいで、オープン後に入院数が減ると思いきや、どんどん紹介患者が増え、病床数が31まで増床になりました。県内の血液内科診療を支える中核病院として頼りにされた結果だと思しますので、とても光栄なことです。一方で、入院待ちも多数発生し、海南医療センター、和歌山ろうさい病院、紀南病院、那賀病院、和歌浦中央病院との連携をどうしていくかという点もこれまで以上に課題となってきました。今年度も病棟はチーム制（上級医、主治医＋研修医）で運営し、外来・外勤中のバックアップ可能な体制をとりましたが、一方でチーム数が少ないため一つのチーム当たりの患者数が多くなるという難点もありました。医療の質を保つと同時に、スタッフの負担を減らす工夫がなかなか難しい1年でした。

良いニュースは、4月に田中先生、古家先生、栩野先生の3名が仲間に加わってくれ、随分と頑張ってくれました。田中先生、古家先生は医大で精力的に患者さんを診てくれ、栩野先生は新宮市立医療センターで孤軍奮闘してくれました。我々の医局の強みはこういった若い世代がどんどん入局し、活気がある点と風通しのよさにあると思っています。7月には海南医療センターから小畑先生が医大に復帰し、大岩先生が派遣にでました。秋には、国内留学先から村田先生が復帰し、ブランクを感じさせずすぐに病棟で活躍してくれました。代わりに細井先生がシンガポールへ留学されました。病棟の総括ではないですが、留学直前に我々みんなの悲願である細井先生がご成婚し、今年度の一番の良いニュースになりました。田村先生は相変わらずの鉄人ぶりで、研究に臨床にまい進しており、蒸野先生は、外来医長としてだけでなく、病棟の取り纏めまでしてくれ心強い限りです。堀先生、弘井先生は、難しい患者さんにも真摯に向き合って本当によく診てくれたと思います。山下先生も実験で忙しい中、要所要所で病棟のバックアップをしてくれました。

今年度も大変皆さんにお世話になり感謝しています。4月からは赤木先生、小浴先生が加わってくれ、また新しい風が吹くかと思えます。園木教授が醸し出している風通しのよい医局の雰囲気大切に4月からも病棟運営していきますので、皆様のご協力お願い申し上げます。

2018年3月17日

## 2017 年度を振り返って

助教 細井裕樹

卒後 10 年以上が経ちましたが、今年度ははじめて和歌山以外の地で勉強・勤務することになりました。大学時代から和歌山にいたため、働き始めてから常に近くに知り合いがいる環境でしたので、和歌山以外の場所で働くことは不安でもあり、新鮮でもありました。昨年 10 月末よりシンガポール国立大学で基礎研究を勉強させて頂くこととなり数か月が経ちます。今まで臨床中心の生活でしたので、知らないことが多いことも加わって、違う職業についてような感覚です。海外での生活は言葉も含めて慣れないことが多く、ようやく少しずつ新しい実験方法を学び始めているところです。和歌山での臨床をしながらの基礎研究では時間的な制約もあり、新たな実験手法を学ぶのは難しかったので、この機会にできるだけ多くのことを学びたいと思っています。

大学には高度な医療を提供する他にも新たな知見を発表する使命があります。新たな知見としては iPS 細胞のような医療の時代を変えうるようなものや、有名雑誌に掲載されるようなものが注目されますが、小さな知見を積み重ねていくこともまた重要だと思っています。留学に際して履歴書を書いていて気づきましたが、この 5 年間は連続して血液学会総会で発表してきました。今後もシンガポールで学んだ知識も用いながら、たとえ小さくても新たな知見を発信し続け、形に残していきたいと思っています。

今年度は田中顕先生、古家美昭先生、栩野祐一先生が入局され、病棟に若い先生が増え医局の雰囲気もさらに活気づきました。今年度ははじめて初期研修終了後の先生が 2 年連続して入局してくれました。さらに来年度も入局者があります。毎年入局者がいると屋根瓦方式の教育が充実するため、若い先生方の診療技術などの進歩も早くなるであろうと思います。近年毎年入局者がいるようになったのは、園木孝志教授をはじめ田村志宣先生、西川彰則先生が医局のよい雰囲気を作って下さっていることに加え、病棟で中心的な役割を担っている弘井孝幸先生、堀善和先生をはじめとする若い先生が忙しいにも関わらず研修医、実習中の医学生を丁寧に指導しているからだと思っています。昨年度は科としてベストクリニカルティーチング賞を頂き、今年度は西川先生がベストティーチャー賞を受賞しており、学生からも認められていることが分かります。今後も学生、研修医に血液内科の魅力を伝えられればと思います。

次年度もしばらくシンガポールで基礎研究を学ばせて頂きます。研究を快く教えて下さっている大里先生をはじめ、研究室の Michelle、Avinash、Humaira、南部先生や、周りの須田先生の研究室などの方々に感謝しています。さらに診療等で忙しい中、このような機会を与えて下さった和歌山医大のメンバーにも感謝しています。せっかく頂いた機会ですので、できるだけ多くの研究技術を吸収してこれからの診療・研究に生かすべく励みたいと思います。

## 年報に寄せて～2017年度を振り返る～

助教・外来医長 蒸野 寿紀

### はじめに

2017年10月前任の細井先生のシンガポール留学後より、外来医長を拝命しました。責任ある立場として、さらに医局の発展、後輩の指導に貢献しなければならないと身の引き締まる思いです。

さて、2017年の血液内科外来診療ですが、外来患者数は8437人と前年より843名の増加となりました。紀南病院や公立那賀病院、和歌山ろうさい病院などへの外勤医師派遣数増加にも関わらず外来患者数が増加しており、新患枠拡大、関連病院との連携強化などの結果と考えています。また、多発性骨髄腫などの予後改善に伴う外来化学療法の充実も要因としてあげられます。今後も増加が予想される患者に対応するため、システム改善が課題と考えています。

### 移植後長期フォローアップ外来 (LTFU) 外来開設について

今年度は移植後長期フォローアップ外来 (LTFU ; Long term follow up) 外来の開設が大きな変化でした。当初の開設目的として、1. 退院後の療養生活に対するフォローアップ外来を開設することにより、患者QOLの向上を図る、2. 移植後外来診療レベルの担保の2点が掲げられました。2017年9月の開設後より、これまで延べ13回が実施されました。LTFU外来の流れとしては、看護師による問診→LTFU外来担当医診察→外来主治医診察としており、田村先生、西川先生、村田先生、蒸野の4名が隔月に外来を行っています。その中で出てきた問題点については、移植外来運営委員会で議論を重ね、少しずつ改善しています。このLTFU外来のシステム化には西川先生、細井先生、岩尾主任はじめ看護師の皆さん、HCTC上田さんが尽力されました。今後は、QOL向上のための診療内容の充実および移植後外来診療レベルの担保という点に取り組むことが課題です。

### 外来移転計画について

2018年度中の血液内科外来移転が決定し、12月に工事開始予定となっています。現在、患者数増加に伴い、骨髄穿刺などの処置や輸血患者数も増加したため、外来スペースが不足している状況にあります。LTFU外来のためのスペースも十分ではありません。また、若手医師も外来診療を開始する時期になっています。今回の外来移転に際し、これらのスペース確保のチャンスと捉え、病院側に要望を伝えていきたいと考えています。

### 外来以外のことについて

今年度はようやく学位が取得できました。特に花岡先生にはこれまで数多くのご指導を賜り、感謝申し上げます。また、昨年度は園木先生に機会を与えて頂き、奈良医大でADAMTS13活性測定を習得しましたが、「自施設でADAMTS13活性を測定し早期診断・治療介入ができた血栓性血小板減少性紫斑病の一例」の演題で堀先生が和歌山医学会総会の若手プレゼンテーション賞を受賞し、大変嬉しく思っています。病棟チームで一緒に弘井先生は、日本造血細胞移植学会・国際アミロイドーシスシンポジウムで発表し、さらに研修医の先生にも発表の機会を与えてくれています。田村先生にはこれらの活動をいつも支えて頂いています。これまで少しずつやってきたことを、これからさらに発展させることを、今後の目標にしたいと考えています。

～再び臨床医として～

助教 村田 祥吾

早いもので医師となって11年が過ぎようとしている。不惑の歳にも近づいてきたが、まだまだ迷い、悩むことばかりの毎日である。このリーダーレポートでさえ、悩み、もがきながら書いているのだから先が思いやれる。

今年度は前半の6ヶ月間を大阪大学微生物研究所の木下タロウ研究室で過ごし、後半の6ヶ月間を和医大血液内科で過ごした。木下研では昨年度に引き続き、基礎研究に勤しむ毎日を送った。外来や病棟業務はなく、患者の急変による緊急コールの心配もない中、自分の計画通りに実験を行うことができる環境は時に臨床医に戻ることを億劫に感じさせるものでもあった。住めば都とはよく言うが、留学当初は全く異なる環境で一年間やっていけるのかと不安ばかりであったが、終わってみれば予定より3ヶ月間延長するまで順応していたように思う。多くの知識、手技を学んだことは勿論であるが、周りは研究で生きている人達ばかりであり、それにかかる思いの強さも身をもって経験した。京都大学での論文不正が問題となったが、成果を出し続けなければ職を失うプレッシャーは時に人の理性をも狂わせてしまうのかもしれない。しかしながら結果が出ない時には多かれ少なかれそういった誘惑に負けそうになることは誰しも経験していることではないだろうか。そこで踏み止まることができるか否か、その一時の判断が人生を決めてしまうのは少々残酷な気がする。そんな様々なことを学んだ1年3ヶ月間の国内留学であった。この経験を活かせるよう日々模索中である。

医大に戻ってからの半年間は打って変わって外来、病棟業務に追われる日々であった。新しい仲間と仕事を共にし、浦島太郎になったように様々な面での変化も実感する毎日であった。新しいシステム、再新の治療指針に悩むことも多かったが、たくさんの患者と向き合い、予期せぬことが日々起こる生活は刺激的であり、今更ながらに新鮮さも覚えた。改めて自分はやはり臨床医であることを自覚した。その反面、戻ってきてからの大学の方針は利益重視で医師を削減し、超過勤務も自粛、それでもしっかり結果を出せと、決して働きやすい環境とは言えないのが非常に残念である。人を大事にし、育てていくという組織として最も重視すべきことが上層部の人間には欠落しているように思えて仕方ない。そんな世知辛いご時世だが、生え抜きの和医大血液内科医局員として、若手医師を大事にし、責任を持って指導、育成していくことがこれからの自分の役目であると感している。

和歌山に住み始めて間もなく18年になるが、昨年11月にマイホームが完成した。住宅ローンは70歳まで続く。まだまだ和歌山の地で頑張らねばならない。沈みかかった泥船に乗っかるように入局した血液内科も年々成長し、今では小型漁船くらいにはなったであろうか。世界を周遊できる豪華客船になる日は一体いつになるのか。それを見届けるまではこの地で血液内科を続けていこう。

## 2017 年度をふりかえって

輸血部 主任 松浪美佐子

いつも書類の提出や、医局とのやり取り等でお世話になっている血液内科の秘書さんから、「今年もリーダーレポートを…」と切り出されると、もう1年たったんだなあという思いと、文面を考えるのが苦手なので何を書こう、と毎年結構悩んでしまいます。リーダーレポート提出も期限間近となり、秘書さんにもご迷惑をおかけしてしまうので、取り留めもないレポートになるかと思いますが、1年を振り返ってみたいと思います。

2017年11月に中央検査部と共に輸血部門もISO認定審査を受けることが決定していたため、その書類準備が2017年年明け頃から始まりました。検査室に特化した国際規格としてISO15189というのがあり、検査の信頼性とそれを生み出す能力がある組織であるかどうかを第三者（認定機関）が評価・認定する制度です。これを取得すると診療報酬の加算が認められるようになったため、2017年3月時点では全国48施設の大学病院で認定を取得しているとのこと。検査手順だけではなく、その検査に関わる機器や試薬、スタッフ教育、環境、患者や医師への対応などについても管理が求められるため、管理するための手順書を作成し、手順書をもとに記録を残していくことが必要となりました。なかには、ここまで必要なの？と思うほど細かいこともあったのですが、無事にISO認定を取得できました。書類作成等にかかなり時間がとられたので、しばらく日常業務に専念したいなと思いつつ、遠い将来にもしもI&A（日本輸血・細胞治療学会による審査）を受けることがあれば、今回の経験を輸血部のスタッフみんなが活かせるかなと思っています。

2ヶ月に1度開催している輸血療法委員会では、2017年度はFFP使用量削減の議題を何度も提示してきました。輸血の適正使用に関する評価として適正使用加算というのがあり、当院ではFFPの使用量が多いためFFP/RBC比が0.54未満にならず適正使用加算I（120点）が取得できていません。園木教授、西川先生には委員会で使用量の多い診療科に検討をよびかけて頂いたり、腎臓内科の先生方の協力のもと、血漿交換時の置換液をFFPからアルブミンの選択ができるように院内の選択基準を設ける等対策をしてきたのですが、まだFFPの使用量は減っていないのが現状です。検査室にいと、患者さんの状況や、どのような時にどの製剤がどれだけ使われるかがなかなか把握できません。今後も、園木教授はじめ、血液内科の先生方にいろいろアドバイスを頂きながら、適正使用に努めていきたいと思いますので、ご指導よろしくお願い致します。

そして、昨年度は大きな輸血ミスもなく無事過ごすことができたと感じています。血液内科のベッド数が増床し、病棟へ出庫する製剤も数多いのですが、検体採取から輸血実施、副作用報告まで、安全に確実に実施してくださっているスタッフのみなさんに心より感謝し、リーダーレポートを終えたいと思います。



10 数年ぶりに 5 階西病棟に戻って参りました。10 年ひと昔と言いますが、驚いたことが多々ありました。同種移植を受ける患者さんが多くなったこと、血液内科の先生方が多くなったこと（特に若い先生が多いこと）、病棟にエアロバイクがありリハビリが充実したこと、なによりも嬉しかったのは準無菌室がきれいに改築されたことでした。変わらないこともありました。白血病やリンパ性腫瘍などの血液疾患の患者さんの前向きな頑張り、それをしっかりと支える看護師達の姿です。受け持ち患者さんが無事に治療を終えて退院することを共に喜び、一方、がんばったけれど天国に召された日には家族とともに泣き、しばらくは落ち込む日々が続きます。そんな看護師の後ろ姿を見て、「よくがんばったね。ありがとう。もっともっと大きくなろうね。ここが踏ん張りどころ。」と心の中で声をかけます。楽しいことも、辛いこともありましたが、やさしく？楽しい？何よりも患者さんのことを第一に考えた先生方の適確な判断により、無事に 1 年を終えることができました。もちろん、毎日病棟に来られ、やさしく見守ってくれている園木教授の存在がとても大きいと思っています。

今年度がんばったこと・・・まずは、4 月のリレーフォーライフが皮きりでした。3 人の新人看護師をはじめ、数名の看護師が参加しました。来年はおそろいの T シャツを作ることを西川先生と約束しています。夏には「ひこばえの会」と血液内科医局による「移植を受けた患者、家族の集い」が開催されました。元気な患者さんから元気をもらって看護師達も元気になりました。血液内科看護は専門性が高いため、定期的な勉強会、WEB セミナー、研究会、学会等に参加し知識を深めました。特に今年は、第 40 回造血細胞移植学会において「HSCT 後の口腔粘膜障害に対する経口摂取前医療用麻薬レスキューの有用性」と題して研究を発表することができました。時間外に頑張った研究チームのメンバーには深く敬意を表します。ご指導いただいた先生方にも深く感謝いたします。看護研究は、日常の看護上の疑問の解消や看護の質を上げるためにはとっても重要なことです。来年もがんばって取り組みたいと思っています。血液内科外来においては、定期的に LTFU 外来を開くことができました。また、高木看護師は、HIV 拠点病院としての役割を果たすべく、院外、院内で研修を担当してくれました。有本副看護師長は、見事に「がん看護専門看護師」の資格を得ました。5 階西病棟の今後が楽しみです。

おめでたいこともたくさんありました。岩尾副看護師長をはじめ、結婚ラッシュに沸きました。働く女性にとっては「家庭と仕事の両立」は永遠のテーマです。

血液内科看護は専門性が高く、患者指導など看護師の役割も大きい診療科です。私たちは、患者さんが元気で退院することを願いながら、「5 階西に入院してよかったよ」と思っていただけのように日々精進していこうと思います。

2016年8月に11階東病棟に2床の血液内科の病床ができ、2018年4月には血液内科病床は7床となります。2016年は、私自身、師長になって間もない時期でしたので、不安なことが多くありました。しかし、看護師がなれない治療や処置を先生方にご指導いただき、疾患の勉強会なども開催していただきました。現在は、実施していなかった看護師での血液培養の採取などの業務拡大をおこない、お互いに働きやすい環境にできるように努力しています。

5階西病棟の準無菌室改築工事時には、一時的に数人の患者が5階西病棟から11階東病棟に転棟しました。元々、5階西病棟の個室に入室されている患者であったため、11階東病棟でも個室に入室してもらった患者ばかりでした。5階と11階の景色に違いがあり、11階東病棟に転棟されてきた患者の中には、「気分が晴れるわ」と表情が良くなる患者もあり、改めて患者にとっての環境の重要性を感じました。

今までは、患者が重症となると11階東病棟から5階西病棟に転棟していましたが、これからは、可能な限り11階東病棟で患者を看れるようになっていきたいと思っています。また、11階東病棟での病床数が徐々に増えていく中で、更に看護師の血液内科疾患に関する学習が必要になってくると思っています。今までは、血液内科関連のセミナーや研修会、学会などには参加できていませんでしたが、これからは参加していければと考えています。まだまだ未熟な点も多いかと思いますが、これからも先生方や他部門のスタッフの方々に協力を得て11階東病棟看護師のスキルアップをしていきたいと思っています。



11 東病棟のカンファレンス



11 東病棟からの風景

昨年度に引き続き、今年度も5西病棟担当薬剤師としてお世話になりました。

薬剤部としては、病棟薬剤業務加算算定が8月から開始となり、全病棟に薬剤師が基本的に常駐するようになりました。それに伴い、病棟に薬剤部の電子カルテを設置させていただき、今までにもまして病棟にいる時間が多くなり、先生方や看護師さん、他のスタッフの方々が気軽に相談をしてくれるようになったと感じます。

病棟薬剤師として、「病棟薬剤業務」で求められている主な業務としては、入院時の持参薬の確認および服薬状況等の確認、薬物療法の設計参画、薬物療法の適正確認、医療スタッフからの相談応需等です。それに加えて「薬剤管理指導業務」として、服薬指導や退院時指導を行っていました。血液内科では抗MRSA薬のTDMも担当薬剤師が行っていました。

5西病棟では、モデル病棟のように「病棟薬剤師」として働けていたと、やりがいを感じています。

すべての病棟がこうなればいいのにな、と強く思います。

この2年間患者さんの人数がどんどん増えており、みなさんたいへんな状況になっていると感じます。それでも、理想的な業務を行えている幸せは、この5西病棟のみなさんのおかげです。

この原稿を執筆している最中、別病棟への異動発表がありました。

この2年間の経験は、今後、薬剤師としてのビジョンを描くのに大いに役立つと思います。

本当にありがとうございました。このご縁を大切にしたいと思います。

今後のみなさまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 7 寄稿文

当科のご報告

和歌山労災病院 血液内科  
阪口 臨

2017年の4月から、貴医局より当院へ、大岩健洋先生が診療応援に来ていただくようになりました。週に1回ですが、再来患者さんも新患さんも丁寧に診てくださり、とても助かりました。7月からは、小畑裕史先生が同様に引き継いでくださり、頼もしい限りです。

こちらの都合で、診療応援は、木曜日をお願いしています。そのため、私のほうで、前日の水曜日に、簡単な申し送り書をしたためて、午前中という限られた時間としている診療を少しでもスムーズに行なってもらいたいと毎週願っているのですが、時に、予期せぬ状況がお二人に降りかかるようです。それでも、きちんとご対応くださっているので、本当に頭が下がる想いです。この場をお借りして、感謝申し上げます。

これからも、貴医局のお力添えにより、当科を盛り上げていただき、患者様を含め皆さまのご期待にお応えできるよう、微力ながら頑張っておりますので、よろしくお願ひします。

## 2017 年度を振り返って

綿貫第2クリニック 綿貫 樹里

毎年なのですが、年報作成の時期になりますと一年の経つのが早いと感じてしまいます。韓国平昌五輪も終わりました。(フィギュアスケートの羽生選手のフリーの演技は土曜日だったので、生で見られました。女子パシュートやマススタートもドキドキしながら夜中に見ました。)

今年度は冬が寒かったせいか、うちの庭の梅の花の開花も遅れ気味で、本日(3/1)満開でした。(いつもは、2/11頃 7分~満開)

医局の大ニュースとしましては、細井先生の✿ご結婚✿とお聞きしています。おめでとうございます。

当院での診療の形態に変化はありませんでしたが、綿貫整形及び当院で内科を開始して2018年5月で4年になります。日々の診療には慣れたものの、患者数の増加に伴いところどころ「もう少し気を付けたいな」と思うことも増えてきたのが2017年度だったように思います。

具体的には、胸部単純撮影や心電図など勤労世代なら健康診断でされるような検査が、後期高齢者の検診には入っていないため、症状出現まで気づけなかったりすることもありました。軽微な症状でも最終検査日より時間が空いているようなら患者さんに提案する必要があるのかなと感じました。

また、高齢者単独での受診のため、治療内容や方針の説明の際、理解してもらうのに困難を伴ったり、忘れてしまわれたり、高齢者の軽度の下痢(独居にて期限切れのものを食べてしまう)・尿路感染が今年度は目についたように思います。

研究のお手伝いの方も、特に変わりはなかったのですが、マウスの飼育について山下先生にアドバイスすることができました。誰かに教える日が来るとは思っていなかったのでびっくりうれしい出来事でした。

家庭の方も特に変わったこともなく、長男(小6)に身長で負けてしまったのが、自分の中ではニュースでした。

いずれも、「大きな成果ないものの無事に1年過ごせました」という感じでした。2018年度はどんな年になるのかドキドキです。今年度を踏まえて少しでも前進できたなと振り返ることができる年にしたいなと思います。

## 海南医療センターでの血液診療

海南医療センター 内科  
大岩 健洋

海南医療センターでの血液診療は 2011 年から園木(現)教授らの外来診療が始まり、2014 年 7 月に栗山先生が常勤医師として赴任し基礎を築かれました。その後 1 年間ずつ細井先生、小畑先生が赴任し、2017 年 7 月に大岩が引き継ぎました。

外来部門は毎週の大岩、隔週の園木教授、栗山先生の 3 名で分担し、無治療経過観察、外来化学療法、定期輸血、血球減少やリンパ節腫脹等の精査加療を行っています。外来化学療法は CHOP 療法、BR 療法、Rtx 維持療法、骨髄腫の化学療法が大半です。

入院部門は大学血液内科からの紹介患者が最多で、当院の外来患者の他、紀中・紀南地区の紹介患者、救急外来からの一般内科患者も増加しています。当院の病床数は 150 床ですが、ほぼ常時 15 名以上の患者が入院しています。血液疾患では高齢者の悪性リンパ腫、急性骨髄性白血病等を対象に CHOP 療法、DeVIC 療法、CAG 療法を行うことが多いです。その他には多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の化学療法や、血球貪食症候群や血液良性疾患の治療を行うこともあります。一般内科では超高齢患者が大半を占めるため、急性期治療を当院で行い、その後は海南地域の病院や紹介元医院へ治療を引き継ぐようにしています。

当院に着任後半年が経過しました。多くの患者を血液内科医 1 名で担当するため非常に多忙です。しかし病院全体のサポートがあり、血液診療を非常にやりやすい環境です。4 階病棟は高齢血液患者の看護に熟練し、発熱時や急変時に手足を動かし頼りになるナースが多い病棟です。内科外来は患者対応や診断書作成等で医師の負担を大幅に軽減してくれます。検査部は正確な末梢血分類はもちろん、平日は 19 時まで常駐し、時間外もオンコールでほぼ全ての院内検査に対応できます。輸血部門は常時の院内備蓄はありませんが緊急時の製剤確保は大学並に迅速です。骨髄像検鏡は緊急時を除いて当方と外注先のダブルチェックで診断を行い、齟齬が生じた際は大学にコンサルトしています。放射線科の読影は非常に迅速です。薬剤部は親切な疑義紹介や、新規レジメン・未採用薬の導入を迅速かつ主体的に行ってくれます。診療で困った際は内科、外科、皮膚科、整形外科、泌尿器科、放射線科、病理の先生方に気軽に相談ができます。

2018 年 4 月からは古家先生が加わり当院の血液診療は 2 名体制となります。紀南病院への堀先生の赴任が決まりました。大学病院の病床不足が続く中、これまで以上に大学のサポートが求められ、双方のよりスムーズな連携が必要と感じています。今後も変わらぬご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。